

2021年度を迎えて

医療法人鉄蕉会 理事長 亀田隆明

2020年度は波乱の年でした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人生初の緊急事態宣言の発出から始まり、東京オリンピックの延期、そして年度末には再び緊急事態宣言が発出されるという思いもよらない一年でした。

医療法人鉄蕉会においては、長年にわたり亀田総合病院院長を務めた亀田信介先生に代わり、次世代の若い亀田俊明院長が誕生し、植田健一副院長をはじめとする若手のリーダーが次々と登場するという、まさに世代交代の一年となりました。

若手のリーダー達は難しい舵取りが求められるコロナ禍でも強力なリーダーシップを発揮し、経営も安定し期末賞与を出せるという結果を残しました。また、開設当初から苦しい経営が続いていた亀田京橋クリニックも、コロナ禍だからこそその新しい発想を取り入れ、岸本誠司院長のもと一丸となって大きく経営改善いたしました。

迎えた2021年、5月も中盤を過ぎた現在でも、未だ大都市を中心とした緊急事態宣言は解けず、オリンピックの開催も危ぶまれています。

この状況の中、医療法人鉄蕉会は亀田総合病院の手術室の増設、年度内の新棟（G棟）の完成を目指し、新しいプロジェクトを展開しています。6月からは10

年余り看護部を率いてこられた丸山祝子前看護部長に代わり、亀田医療大学教授の渡邊八重子氏が新看護部長に就任され、1000名を超える看護部を指揮することとなりました。

引き続き、鴨川キャンパスで年間2万例の手術を目標に、また研究面での発展も目指して進みつつ、今年度から木更津プロジェクトの具体化を目指し事業計画を詰めてまいります。今年も医療法人鉄蕉会はチャレンジを続けてまいります。